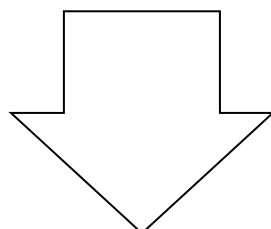


令和5年度 文京区立柳町小学校 授業改善推進プラン 6年

	育てたい力	具体的な授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことを明らかにするため、事実と感想・意見を区別したり、表現を工夫したりして、自分の考えをまとめ、話す、書くなどして、相手に確かに伝えること。 ・文章の全体像を把握し、文章を基に、必要な情報を選んだり、人物の相互関係などを捉えたりして、論の進め方や表現の効果を考えながら読むこと。 ・互いに話したり聞いたりして考えや思いを共有し、自分の考えを広げること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章全体の大体を捉えたり構成を考えたりして、筆者の考えやその理由をまとめさせる。 ・根拠となる叙述や描写など、着目した箇所を明らかにして読み進める活動を続ける。 ・話す時・聞く時のルールを徹底しながら、他者の意見を繋いでいくようにする。必要に応じて、付箋や ICT を活用し、自分の考えの変化や気づきを記述する活動を続ける。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を通して気付いたこと、疑問に思ったことを自らの生活や経験を基に、推測すること。また、必要な情報を集め自分の考えをまとめること。 ・学習問題を意識し、資料を活用して自分の考えをもつこと。 ・歴史上の人物や事柄に対して、学習したことを自身の言葉でまとめること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会への視野を広げるために資料から自分たちの生活と政治のつながりについての情報を得るようにさせる。また、各自が考えをもった上で話し合いを行っていく。 ・資料からわかる事実と、資料を見て考えた事柄と分けることで、資料の読み取り方を理解できるようにする。 ・毎時間、本時のまとめを書く際に、学習したことを活かし、自分の言葉でまとめられるように声かけする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・未知の課題に対して、既習事項を活用したり、類似点を見付けたりして、正しく立式すること。 ・学んだことを日常生活と結び付けて考えたり、日常生活の中でどのように使えそうか考えたりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項と比較して考えたり類似点に気付かせたりする。 ・数直線やグラフ、数値など視覚的資料を充実させて、根拠をもたせて立式させる。 ・発展的な場面や単元のまとめとなる場面において、経験や体験を想起させ、結び付けさせる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を理解し、観察・実験に関する基本的な技能を身に付けること。 ・課題を解決する中で、予想や仮説を基に解決の方法を根拠立てて考えること。 ・観察や、実験の結果からどんなことが言えるのか、自分の考えをまとめて伝えていくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験の目的を事前に示し、意識付けを十分に図る。 ・授業前に予備実験を行った上で、より安全な方法や道具の操作を指導していく。 ・まとめ方を具体的に伝えることで、自信をもって文章を作れるようにする。また、自分なりにまとめる力を育む。 ・児童が興味関心のある内容を調べ、理科分野の楽しさを味わえる活動に取り組む。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題を見付け、その課題解決のための方法を自己の能力に合わせて選び、運動に取り組むこと。 ・運動の楽しさや喜びを味わい、自ら主体的に運動しようとする事。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間のめあてと振り返りを行い、次の学習につながるようにする。 ・必要感をもって友達同士で互いの動きを見合ったりタブレットを活用したりして、自分に合った課題解決の仕方ができるようにする。 ・問いかけ、称賛、修正、思考できる言葉掛けをしていく。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発問の工夫を通して、児童の多様な考え方や感じ方を引き出させるようにする。 ・書く活動（自己の振り返り）を通して、児童自身が考えを深めたり、整理したりする機会を設ける。

総合	<ul style="list-style-type: none"> 各自が興味・関心をもった内容から課題を見だし、適切な情報収集能力の育成と表現力を高めること。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童に学習の見通しや目的を伝えていく。 情報収集する時間を十分確保する。 疑問に感じたことや問題であると考えられたことを課題としていく。 今の自分を見つめたりこれからの自分について考えたりこれからの自分自身のキャリアについて考えていけるようにする。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの生活体験を振り返り、自分の生活に役立つ工夫を考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活の仕方に関する基礎知識を習得できるように、ワークシートなどを工夫していく。また、日常的な過ごし方の中でも、どのような取り組みがあるかを考えさせていく。 自分の生活体験を振り返ったり生かしたりできるようにする。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けること。 音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもつことや曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにすること。 主体的に音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら様々な音楽に親しむとともに音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のねらいを明確にし、旋律、リズム、強弱、速度、音色などと曲想との関わりについて理解できるようにする。運指や奏法の基礎を押さえ、スモールステップや発展的に工夫できる教材を選ぶようにする。 音楽を聴いて感じたこと、気づいたことを基に、互いの思いを共有しながら音楽表現ができるようにする。楽曲や演奏のよさを伝えるために、言語活動を通して、自分の思いや友だちの思いを交流させながら、音楽を味わって聴くことができるようにする。 導入時の音楽の出会いを既習事項と関連させながら工夫し、個人の学習活動を保証すると同時に、交流、ペア、グループ学習を有効に取り入れる。様々な音楽をバランスよく取り入れ、日常の音楽との関わりを意識できるようにする。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 自分や他者の感覚や行為を通して、造形的な見方考え方を深めること。 材料や用具を活用し、表し方などを自分で発想し構想を重ねながら、創造的に作ったり表したりすること。 親しみのある作品などを鑑賞し、造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じとったり考えたりし、他者の感じ方に触れながら自分の見方や感じ方を深めること。 	<ul style="list-style-type: none"> 造形的なよさや面白さを深めるために、既習の道具や材料を使ってよいことを常に伝える。 発想を深めるための手立てとして、自然に相互鑑賞ができるよう場や時間の設定を工夫し、自分と他者の感じ方の相違を感じる機会をもつ。価値観を広げるきっかけをつくる。 自分たちの作品や美術作品の鑑賞活動などを通して、自分の感性で作品を感じとるおもしろさを感じるとともに、見方を深め自分の表現に生かしていけるような活動の流れにする。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> すすんで英語で尋ねたり、答えたりすること。 自分の考えや思いを英語やジャスチャーなどで表現しようとする。 アルファベットの大文字や小文字を書くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時に学習した英語を使った内容をウォーミングアップで行う。 イラストなど視覚的資料を充実させて、PCを活用し自ら調べたり、発表したりしながら、英語での表現を身に付けさせる。 ワークシートを活用しながら、アルファベットを見て、書かせる。



	成果○ と 課題▼
国語	<p>○文章全体の大体を捉えたり、構成を考えたりして筆者の考えやその理由をまとめさせることを継続して指導してきたことで、文章の中で大事になってくる部分を見極める力が付いた。</p> <p>○根拠となる叙述や描写など、着目した箇所を明らかにして読み進める活動を続けることで、整理しながら自分の考えをまとめることができた。</p> <p>▼児童の実態に応じて、付箋やICTを活用し、自分の考えの変化や気づきを記述する活動を続けていく必要が今後もある。</p>
社会	<p>○多くの資料と関連付けることで、自分たちの生活と政治のつながりや日本及び諸外国との歴史についての情報を得ることにつながり、社会への視野を広げる手立てとして有効だった。</p> <p>○学習課題に対して各自が考えをもつことで、意見を伝えようとする児童の姿が多く見られるようになり、グループや全体の場での話し合いが深まった。</p> <p>▼資料から分かる事実と、資料を見て考えた事柄と分ける、資料の読み取り方と分析の仕方をより深めていく必要性が理解できるようにする。</p>
算数	<p>○ペアやグループで考えを発表し合う場面を設定することで、多様な考えを捉えるようになった。</p> <p>○小数や分数の意味が理解でき、確実に計算できるよう、繰り返し適用問題に取り組みさせることで、計算に自信をもつ児童の姿が見られた。</p> <p>▼算数的な考え方を表現するための、図や絵、グラフ、数直線といった思考の手助けとなるツールを児童の実態を踏まえて十分に使いこなすことができるように指導していく必要がある。</p>
理科	<p>○生活経験を生かして考えることにより、授業への参加意欲が高まった。</p> <p>○実験を行う前に注意事項を簡潔にし、児童に徹底させたことで、安全に実験を行うことができた。</p> <p>▼予想を立ててから調べることにより、自分たちですすんで実験を行おうとする意欲をより高めていく。</p>
体育	<p>○学習カードを毎時間活用したことで、自分の課題を振り返り、めあてを一人一人が意識しながら活動に取り組んでいた。</p> <p>○ルールや場の設定を工夫したことで、一人一人が役割を見付け、楽しく運動に取り組む姿が見られた。</p> <p>▼児童の体力や技能差が大きいので、「できた」のレベルを下げたり低学年の遊びなどを入れたりして、運動の楽しさを引き続き、味わわせていく。</p>
道徳	<p>○授業の始まりと終わりで、自分の考えを書かせたことで授業前後の変化を見とることができた。</p> <p>○自分の考えを表現する時間を確保したことで、友達の考えと比較したりより自分の考えを深めたりすることができた。</p> <p>▼更に友達の考えと比較したり、より自分の考えを深めたりできるように、自我関与できるように発問を工夫していく。</p>
総合	<p>○児童に学習の見通しや目的を伝えたことで、タブレットを活用した発表の仕方など有意義な交流ができた。</p> <p>▼疑問に感じたことや問題であると考えられたことを課題として設定できるように教材研究を続けていく。</p>
家庭	<p>○ワークシートを工夫したり、実践活動したりすることで、生活の仕方に関する基礎知識を習得できるようになった。</p> <p>○日常的な過ごし方と関連付けて考えさせることで、児童の深い学びにつながった。</p> <p>▼生活経験に差があるため、経験が乏しく想像しにくい児童に対する支援が必要であった。</p> <p>▼家庭や地域での実践に生かせるよう、互いにうまくいったことや次回に生かすことを伝え合う時間の設定を多くする。</p>
音楽	<p>○授業のねらいを明確にすることで、児童の様子の見取りやワークシートでのふりかえりを通して個々の到達度と課題を見取ることができた。</p> <p>○歌唱、器楽、鑑賞、音楽づくりと年間を通してバランスの取れた学習内容に取り組むことができた。</p> <p>▼限られた時間内での個々の歌唱やリコーダーなどの技能面での指導が十分ではなかった。思いを持ってそれを生かす技能を身に付ける時間の確保と適切な指導や、思いを表すための工夫の必要性を児童自身が主体的に感じ取り、生かしていけるような声かけ、年間を通しての継続的な手立てを考えていく。</p>
図工	<p>○既習の道具や材料について、児童からの申し出があれば可能な限り使用できるように準備をした。友達との工夫からさらに表現の幅を広げている姿も見られた。</p>

	<p>○制作の途中で自然にお互いの表現を見て声を掛け合っていた。自然な形で、友達同士の良さや違いを認め合う姿が見られた。</p> <p>▼授業時間内に落ち着いて鑑賞の時間をとることができなかった。互いの表現を認め合う時間をもつことができるようにする。</p>
<p>外国語</p>	<p>○導入時に習ったセンテンスをつかって、友達とたくさんコミュニケーションを取ったことで、英語表現に親しむとともに慣れることができた。</p> <p>○様々なアクティビティを入れて、発音したりスペルを見たりすることで、英語表現に慣れることができた。</p> <p>▼ライティングの時間を十分設定し、簡単なアルファベットで単語やセンテンスが書けるように取り組んでいく。</p>